

平成26年度 基礎・基本定着状況調査結果のまとめ

平成26年10月
広島市立福木中学校

1. 実施日 平成26年 6月10日(火)
2. 調査の目的 「読み・書き・計算」などの基礎的な知識・技能の定着状況とともに、思考力・表現力などの状況を把握するため
3. 調査の対象 第2学年
4. 調査の内容 国語・数学・理科・英語における前学年までの学習内容の定着調査



1. 各教科の課題今後の指導について

教科	課題	改善する指導内容と方法
<p>国語</p> <p>通過率平均 福木中60.1% 市 70.6% 県 73.7%</p>	<p>①歴史的仮名遣いや主述の関係など基本的な文のきまりを理解できていない。 (「文語のきまり」通過率60.4% 「主述の関係」通過率35.6%)</p> <p>②根拠に基づいて書くことを苦手とする生徒が多い。 (「根拠を明確にして書く」通過率57.4% 「根拠に基づいた考えの記述」通過率37.6%)</p>	<p>①基本的な既習事項について復習していないために主語や述語、仮名遣いといった用語自体を忘れてしまっている生徒が多い。折に触れ復習したり、定期テストに出題したりすることで知識の定着を図りたい。</p> <p>②授業の終わりに「授業のまとめ」として今日理解できたことを記述させる。毎時間の取り組みとして書く時間を設けることでまず書くことへの苦手意識を払しょくさせる。そのうえで記述の内容については丁寧に添削を行い、根拠を示しながら記述できるよう指導していく。</p>
<p>数学</p> <p>通過率平均 福木中56.8% 市 69.0% 県 70.2%</p>	<p>①文章から、数量関係を読み取ることや、文字式として表現することが苦手である。また、文章の長い問題になると、取りかかりにくく、言葉で説明することも苦手である。 (通過率56.4%)</p> <p>②関数の関係について苦手意識をもっており、グラフ上の点を読み取ることができていない。 (通過率32.7%)</p>	<p>①計算や式だけでなく、文章を読み取る力、文章の中にある値をどこでどのように使うかの判断力を高めたい。身の回りの具体的事象など想像しやすい事柄を例として取り上げ、繰り返し取り組むことで苦手意識を取り除きたい。</p> <p>②具体的な事象を利用して、数量関係を読み取らせ、関数の式の表す意味をきちんと理解させる。</p> <p>③授業を進める中で、小グループを活用し、生徒同士で教え合う場を設けたい。応用問題など、1人で取り組むのが難しい問題や、基本問題を生徒同士で教え合うことで、教員も多くの生徒に目を配ることができると思われる。</p>

<p style="text-align: center;">理 科</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">福木中44.0%</p> <p style="text-align: center;">通過率平均</p> <p>市 51.9%</p> <p>県 55.0%</p>	<p>①温度計・メスシリンダーなどの目盛りは、「最小目盛りの10分の1まで読み取る」ということが習慣づいていない。(通過率28.7%)</p> <p>②岩石を作っている鉱物の大きさ、色、形などをよく観察し、火山の形や色は溶岩の性質(特に粘りけ)によって決まることが理解できていない。(通過率 10.9%)</p> <p>③「溶解度」・「飽和水溶液」・「再結晶」ということばの意味が理解できておらず、文章で表現することができない(通過率 5.0%)</p> <p>④双子葉類と単子葉類を対比させ、それぞれの根・茎・葉にどのような違いがあるのかを説明することができない(通過率 20.8%)</p>	<p>①実験結果をもとに、どのような変化があればどのような解釈が成り立つのかという段階を丁寧に整理しながら、観察・実験結果を分析・解釈する活動を十分に取り入れる。</p> <p>②観察を行う際には、形、大きさ、色などの特徴を具体的に挙げて観点到に注目させるとともに、既習の知識や概念などを提示しながら解釈する活動を十分に取り入れる。</p> <p>③空間的にとらえにくい事物については、モデルを作成したり、シュミレーションソフト、デジタル教科書などの視覚教材を用いたりして、じっくりと観察する活動を取り入れる。</p>
<p style="text-align: center;">英 語</p> <p style="text-align: center;">通過率平均</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">福木中52.8%</p> <p>市 63.1%</p> <p>県 68.2%</p>	<p>①基本的な文のきまり、語順を理解していない。(通過率24.0%)</p> <p>②まとまりのある文章を読み、その中身から適切な質問を考え英文を書くことができない。(通過率31.0%)</p> <p>③資料や前後の英文を読み取り、そこからつながりのある英文を書くことができない。(通過率35.0%)</p>	<p>①「主語、動詞」といった英文の核となる部分が定着できるように、指導にあたっては英文を板書したりする際は「だれが、どうする」といった語順を強調するように語順カードを用いたり、「主語、動詞」のかたまりを考えさせたりする活動をおこなう。</p> <p>②1年時に使用した教科書の対話文や英文を読み、その要旨を読み取らせる。また、英文を読んだ後設問としてまとまりのある英文を書くようなものを設ける。</p> <p>③対話文などの途中の単語を抜き取った文章を提示し、その前後の内容から文脈を読み取り、会話が論理的につながるような練習問題をおこなう。</p>

2. 生活と学習に関する意識・実態について

生活に関する意識・実態	
県平均と比較して良好と考えられる主な項目	県平均と比較して課題があると思われる主な項目
<p>○毎日朝食を食べています。 (本校89.2% 県94.8%)</p> <p>○外に出て運動するなどして体を動かしています。 (本校77.2% 県81.2%)</p> <p>○ふだん、同じくらいの時刻に起きています。 (本校91.1% 県94%)</p>	<p>●ふだん、同じくらいの時刻に寝ています。 (本校70.3% 県84.4%)</p> <p>●新聞やテレビのニュースを見ています。 (本校59.4% 県74.1%)</p> <p>●地域や子供会などの行事に参加しています。 (本校25.7% 県56.6%)</p> <p>●ふだん、3時間以上テレビを見たりゲームをしています。 (本校53.4% 県平均28.8%)</p> <p>●休日、3時間以上テレビを見たりゲームをしています。 (本校79.2% 県54.6%)</p> <p>●自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。 (本校37.7% 県55.7%)</p>
学習に関する意識・実態	
県平均と比較して良好と考えられる主な項目	県平均と比較して課題があると思われる主な項目
<p>○数学の勉強は好きです。 (本校63.4% 県62.9%)</p> <p>○数学の授業はよくわかります。 (本校76.3% 県72.7%)</p> <p>○将来の夢や目標を持っています。 (本校68.4% 県75.8%)</p> <p>○学習を最後までやりとげて、うれしかったことがあります。 (本校80.2% 県86.5%)</p>	<p>●学校の授業の予習をするようにしています。 (本校17.8% 県38.1%)</p> <p>●学校の授業の復習をするようにしています。 (本校34.7% 県55.3%)</p> <p>●ふだん、家での学習時間が1時間より少ないです。 (学習塾や家庭教師との学習を除く) (本校70.4% 県49.3%)</p> <p>●休日、家での学習時間が1時間より少ないです。 (学習塾や家庭教師との学習を除く) (本校65.3% 県47.4%)</p> <p>●将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しています。(本校61.4% 県80.0%)</p> <p>●「やりなさい」と言われるから勉強しています。 (本校53.5% 県46.2%)</p> <p>●自分で勉強の計画を立てています。 (本校31.7% 県52.6%)</p>

3. まとめと今後の取り組みについて

- ① 調査を実施した教科において、基礎的・基本的な学習内容の定着ができていない項目があった。指導の工夫、つまずきのある生徒への対応を模索し、基礎・基本の定着のための取り組みを実践し、確かな学力の定着をめざしたい。
- ② 生活に関する意識・実態については、朝食をきちんと摂り、起床のリズムができているなど、基本的な生活習慣は多くの生徒が身につけている。また、部活動に参加し、体を動かす習慣もついていることが分かった。
一方で、就寝時間が定まっていない生徒が多く見られた。平日で5割、休日で8割の生徒が3時間以上テレビを見たりゲームをしたりしていることから、夜遅くまでテレビを見たりゲームをしたりしていることがうかがえる。
新聞やテレビのニュースは6割近い生徒が見ているが、地域の行事への積極的な参加は3割以下であるため、福木ふれあいひろばや、地域ボランティアの参加などでの機会を増やしたい。
- ③ 現時点では、将来の夢や目標を考えている生徒は7割弱いるが、その夢に向けてどのように努力して行けばよいか分からない生徒が多いので、日々の授業や進路学習などを通して、具体的な手立てを示して行きたい。
- ④ 学習に関する意識・実態については、学習を最後までやり遂げ、うれしかった経験を持つ生徒が8割と多い。しかし家庭での学習習慣が定着しておらず、ふだん学習時間が1時間より少ない生徒が7割を超えている。自分で学習計画を立てて学校の授業の復習等をしている生徒が4割以下であることから、家庭で計画的に学習できるよう、家庭との連携を一層深めていくとともに、教育相談等での個別の相談をより充実させたい。

改善したい点	今後の取り組み
①場面や条件に応じて適切に書くこと、複数の資料・情報をもとに、自分の考えを相手に正しく伝えるように話す(書く)ことの力が十分についていない	①各教科の授業の中に、小グループ活動で自分の考えを話したり書いたりして伝え合う場を取り入れ、自分の考えを相手に正しく伝える力をつけたい。
②社会的な事象に関心がなく、自分の将来の夢や目標について、どうやって実現させればよいか分からない。	②普段の学習活動や行事への取り組みの中で社会的な事象と関連づけた教材を取り上げると共に、自分の良さの発見に努め、どのように夢に近づいて行けばよいか、手立てを示す。
③計画を立てて、家庭学習をする習慣があまり身につけていない。	③テスト前の計画をしっかりと立てさせ、家庭と連携して、自主的・主体的に学習に取り組む指導を継続しておこなう。